

中海・央道湖・大山圏域の訪日外国人ペルソナ

①神話・歴史 “JAPANESE ROOTS”

プロフィール

氏名:ジャン パトリック
国籍:フランス
年齢:1975年3月生まれ(うお座)40歳
職業:商社勤務
役職:アジア担当部署の管理職
その他:日本への留学経験あり
家族構成:妻と子供2人
居住地:パリ郊外の新興住宅地に住む
休日の過ごし方:家族で買い物や近くの公園でのんびり
長期休暇:バカンスには静かな田舎町に2週間滞在
趣味:読書、サイクリング、写真撮影



日本への関心

かねてから歴史に興味があり、フランスの歴代領主の名前はほぼ暗記した。歴史を学ぶ過程で、アジアの国々もまた、永く王朝が続いていることを知った。その歴史観を肌で感じたくて日本への留学を決め、学生時代の半年を、実家のあるエソンヌ県と姉妹都市にあたる茨城県の水戸市で過ごした。帰国後は、海外とのつながりを意識して、商社に勤務。年に数回海外出張もあるが、残念ながら日本への再訪機会には恵まれていない。

生活スタイル

- ・通勤時間はおよそ60分。渋滞がひどい街中を天気の良い日は趣味を兼ねて自転車通勤を楽しんでいる。
- ・商社勤務も間もなく20年を迎えようとしている。業務の関係で海外へ行くこともあったが、欧米での取引が中心の為、アジア方面とのつながりが薄かった。
- ・今一番大事なことは家族の健康であり、週末の家族との触れ合いを楽しんでいる。
- ・子供たちも自然や歴史を楽しむことを自然と楽しみ始めており、大きくなったらエジプトに行きたいそうだ。
- ・老後は趣味の歴史を訪ねる旅を、気のおける友と一緒に、ゆっくり過ごしたいと考えている。
- ・好きな言葉は、「よいワインに看板は不要」

情報源と接触回数

自身ではFacebookを利用し、会社内外の知人や仲間とコミュニケーションを図っており、近所やバカンスで撮影した写真や家族との様子をUpしている。テレビを見る機会は少なく、情報は専らインターネット。最近では仕事も忙しくなり、趣味の読書もおぼつかない。西洋と東洋の文化の違いに興味があり、かつての日本留学経験から、当時観た文化の違いを子供たちに話すことが最近の日課になっている。

日本で実現したいこと

かつてホームステイで滞在したことのある、茨城県を再び訪れ、当時教えてもらった日本の歴史や文化の見識を高めたい。また、日本らしい風景を、数多くカメラに収めたい。

*経験ストーリー展開案① JAPANESE ROOTS 日本人の歩んだ昔話の里を訪ねる

<メインテーマ>

神話の里に伝わる日本の昔話を紐解き、1300年の歴史を振り返る

<ねらい>

1. 神話の舞台をつなぎ、ストーリー化

日本古来の昔話である「古事記」に収められている出雲神話をテーマに、そのゆかりの地をつなぎ、観光コースとして紹介する。そのいわれやエピソードも併せて紹介し、地元の当たり前を観光客にも積極的に披露する場を整備する。

2. 個人の興味関心や裁量で時間調整が可能なコースづくり

歴史と向き合いその奥深さを楽しむコースの為、観光客のペースを重視するコース設定を心掛ける。あくまでもモデルコースであり、観光客の関心の濃淡でコース変更できるよう、余裕と弾力性をもった設定とする。

3. 「古きよき日本」を感じるポイントを多く設定

古事記に限らず、今に通じる出来事や施設と連携し、ゆかりの地や説明の必要なポイントでは、極力丁寧な案内を行い、観光客に響く説明を行う。

<コース設定>

ペルソナが訪れやすい設定にするために、フランス人に人気の高い「広島」を基点としたコース設定とする。

また、バカンスを楽しむヨーロッパスタイルに対応可能なフレキシブルなプラン*とする。

○基本日程(4日間)

1日目 : 広島====(高速バス)====松江====(観光タクシー)====松江温泉

2日目 : 松江温泉====(一畑電鉄)====大 社……出雲大社====玉造温泉

3日目 : 玉造温泉====松江====美保関====境港====皆生温泉

4日目 : 皆生温泉====米子====南部町====松江====(高速バス)====大阪

*時間に余裕があれば、出雲の国生み伝説にも現れ、かつて帝が流された島として有名な隠岐の島に滞在も可能。

宿泊せずに、日本で数少ない寝台列車にて東京へ向かうことも可能。

宿泊地はそれぞれのエリアでホテルにも変更可能
松江温泉・玉造温泉⇒松江市内
皆生温泉⇒米子市内・境港市内

*経験ストーリー展開案① JAPANESE ROOTS 日本人の歩んだ昔話の里を訪ねる

○コース設定（案）：パトリックが参加する神話ストーリープログラム

2016年11月某日

・広島市内

現在でも数多くの外国人が訪れる観光地であり、中海・宍道湖・大山圏域に来訪の可能性が高い外国人が存在する可能性が高いため、広島市内の観光スポットでの情報発信を強化している。（駅・市内観光案内所、バスセンター、市内ホテルコンシェルジュ等）



・広島駅・バスセンター

日本の歴史に興味をもったフランス人男性パトリックは、宮島を訪れるために広島駅で観光案内所を訪れていた。そこで、「JAPANESE ROOTS」の紹介パンフレットを見つけ、日本の原点ともいえる出雲大社やその歴史にまつわる資源が豊富にあるエリアが、バスでわずか3時間の距離にあることを知る。今回は、広島の帰りに大阪・奈良に立ち寄ろうと考えていたが、その途中に「JAPANESE ROOTS」を組み入れることが可能とわかったので、明日松江に向かい、プログラムに参加することを決めた。窓口で松江行のバスチケットを購入、乗り場を教えてください、バスセンター近くの繁華街のホテルを予約した後、路面電車に乗って宮島へ向かった。



・広島バスセンター⇒松江駅

持参したガイドブック「ミシュラン」にも、出雲大社は掲載されていたが、広島から近いとは思わなかった。バスの中で情報収集をして、松江駅から市内を巡るバスに乗り換えることにする。松江駅までは広島市内からおおよそ3時間20分、朝一番に乗らなくても昼前には松江市内に到着することが出来るため、今朝はホテルで和食の朝食を食べてからバスに乗り込むことが出来た。松江駅には少し遅れて11時30分に到着した。日本の交通機関は数分遅れても乗務員がお詫びをする。そんな丁寧な対応に感心しながら、市内循環バスに乗り換えるため駅の観光案内所を目指した。



・松江駅⇒松江市内

「JAPANESE ROOTS」のテーマは日本の昔話が描かれている「KOJIKI」や「NIHONSHOKI」というものに由来するらしく、今回は「イザナギ・イザナミゆかりの地」を訪問することに。ところが市内循環バスで巡るには接続が良くないそうなので、観光タクシーで案内してもらうことにした。ドライバーのNISHIKORIさんは英語が少し出来るそうなので、少し安心。途中では食事をするところがありません。駅の中にあるJIZAKANA料理の店を紹介してもらった。日本のSASHIMIはとても美味しい。

食後はいよいよ観光タクシーに乗って神話にまつわる施設を巡る。日本を作ったイザナギとイザナミについて、ドライバーさんがカタコト英語で教えてくれた。よくわからないけど、一生懸命説明してくれる姿に、松江の人々にとって、神話はとても大切なものということがわかった。

◎黄泉の国訪問ゆかりの地、イザナギとイザナミを深く知る

○松江市内スポット

- ・ 劔神社（イザナミと再会した黄泉国から戻った場所）
- ・ 神魂神社（イザナミを祀った神社）
- ・ 揖夜神社・黄泉比良坂伝承地（黄泉国への道をふさいだ場所）

今日は移動が長く、少し疲れたが、いい温泉があるというので松江温泉に宿泊。しかも温泉なのにベッドルームというのが有難い。食事は軽く済ませ、明日に備えて早めに眠った。

<松江温泉泊>

*経験ストーリー展開案① JAPANESE ROOTS 日本人の歩んだ昔話の里を訪ねる

2016年11月某日

・松江市内⇒出雲大社

ホテルから歩いて僅かなところに駅があり、そこから出雲大社まで行けると、昨日フロントで教えてもらった。早速電車に乗って出雲大社に向かう。日本のローカル線は都会と違ってのんびり過ごせる。1時間の電車の旅で出雲大社前駅に到着した。



・出雲大社⇒松江市内

「JAPANESE ROOTS」の象徴ともいえる出雲大社に向かう。途中案内所に立ち寄り、出雲大社とその周辺の情報を調べる。外国人観光客が多く、情報交換にも使える場所だ。出雲大社のお参りの作法が他と違うこと、IZUMO SOBAが名物ということを知ったので、早速試すことにする。SOBAはフランスにもあるので、ぜひ食べてみようと思う。ただし、フランスはクレープのように延ばして食べることが多いので、少し違うかもしれない。

出雲大社を満喫したあとは、同じ市内の宿泊先に向かう。日本有数の古い温泉玉造温泉を観光案内所で勧められたが、昨日宿泊したホテルが快適だったのでもう1泊することにしていて、荷物も置いてきている。再び電車で松江温泉に向かう。途中夕陽がきれいだったと聞いたが、残念ながら今日は曇り空。「IZUMO」の名前の由来は雲が出る場所ということで、晴れの日が少ないらしい。昨日ガイドのNISHIKORIさんに教わった。

◎国譲りのゆかりの地 大国主命とは

○出雲市内スポット

- ・出雲大社（古事記国譲り伝説の舞台）
- ・稲佐の浜（日本書紀にも登場する浜）
- ・因佐神社（出雲風土記にも表れる由緒ある神社）

< 松江温泉泊 >

2016年11月某日

・松江市内⇒境港

松江市内と日本海の間には横たわる島根半島は、その昔国造りの時に陸を引っ張ってきた名残らしい。日本ではそのようなことが本当に信じられているところも興味深い。せっかくなので足を伸ばしてその姿を観ようと思う。途中には東京とは違う静かな農村風景が広がっている。

○松江市内スポット

- ・美保関（大国主命の子コトシロヌシゆかりの場所）
- ・美保神社（出雲風土記にも記された神社）



・境港⇒皆生温泉

日本海は美味しい海の幸が楽しめるそうなので港まで行ってみる。市場では獲れたての魚や名物のカニを使ったどんぶりが有名らしい。そろそろ肉もたべたいところだが、せっかくなので海鮮丼にチャレンジしてみる。日本人はなぜ魚を生で食べるのか不思議だが、こうして獲れたてを食べるとその意味がわかる気がする。食事の後は観光案内所で教えてもらった海辺の温泉に向かってみることにする。海を見ながら温泉に入ることは、日本でないとは体験できないので楽しみだ。

< 皆生温泉泊 >

*経験ストーリー展開案① JAPANESE ROOTS 日本人の歩んだ昔話の里を訪ねる

2016年11月某日

・皆生温泉⇒南部町

米子市内からほどないところに、昨日訪ねた出雲大社ゆかりの大国主命ゆかりの場所があるというので訪ねることにする。バスを利用して30分、最寄バス停から徒歩15分、再生神話と縁起(ENGI)の良い神社らしい。日本人のいう「ENGI」はよくわからないが、いいことが起こるような“おまじない”のようなことのようなのだ。いいことが起きることがGORIYAKUらしい。



・南部町⇒米子

米子市内へ戻る途中に、長寿の神話、人魚の肉を間違えて食べてしまった娘が美しいまま800年間生きたという「八百比丘尼」の伝説が残っている場所があるので、立ち寄ることにする。日本の伝説は長生きや再生といった、生命にかかわるものが多い気がする。日本が1,000年以上続いているのも、そんなご利益(GORIYAKU)のおかげなのかもしれない。



・米子⇒大阪市内

ひととおりJAPANESE ROOTSを巡ってきたが、そろそろ元のルートに戻らなければならない。観光案内所に広島行きのバス時刻を尋ねると、米子から大阪方面にもバスがあるとのこと。それであればそのまま大阪に向かおうと、予定を少し変更する。日本は鉄道以外にも高速バスが充実していて使いやすい。「JAPANESE ROOTS」も、高速バスのアクセスを紹介しながら、神話のストーリーを紹介すると、行きたくなる外国人は多いと思う。高速道路はスムーズで夕方には大阪に着くことができた。

○米子市内・南部町内スポット

- ・赤猪岩神社（大国主命再生伝説が残る）
- ・粟嶋神社（八百比丘尼伝説が残る）

広島から何の気なしに訪れた中海・宍道湖・大山圏域は、神話にまつわる場所があちこちになり、一度に見きれないことがわかった。今度また訪れるときは、バカンス中にゆっくり巡ることも考えてみたい。

<スポットの解説> 神話の説明に欠かせない場所を丁寧に伝える

◎黄泉の国訪問ゆかりの地、イザナギとイザナミを深く知る

○安来市内

・スポット1 比婆山

火の神を生んだ時の火傷が原因で亡くなったイザナミの亡骸は、出雲国と伯伎(伯耆)国の境の比婆の山に葬られた、と記されており、このイザナミが葬られた「比婆の山」とする説の一つが、安来市伯太町にある比婆山である。

○松江市内

・スポット2 劔神社

イザナギは亡き妻が恋しくなり、黄泉国まで会い行くが、イザナミの変わり果てた姿を見て、恐ろしくなり逃げ出すと、怒ったイザナミは、自分の体に帯びていた雷神に大勢の黄泉の軍勢を従わせてイザナギを追わせ、イザナギは十拳劔を抜いて、うしろ手に振りながら逃げた、と記されている。この劔を抜いた場所が劔山の山頂にある劔神社だと伝えられる。

・スポット3 神魂神社

「大庭の大宮さん」と親しまれる神魂神社の主祭神はイザナミノミコトである。揖夜神社・熊野大社・眞名井神社・八重垣神社・六所神社とともに「意宇六社」と称され、この六社を巡拝する「六社まいり」という行事が行われる神社の一つで古い由緒をもつが、『出雲国風土記』にも『延喜式』にも、この神社の記載がなく大きな謎とされている。

・スポット4 揖夜神社

黄泉国より逃げたイザナギがたどり着き、大きな石で黄泉国に通じる黄泉国比良坂を塞いだことが記されている。この黄泉国比良坂は、今は出雲国の伊賦夜坂といわれる、と記されている。

・スポット5 黄泉比良坂伝承地

黄泉国より逃げたイザナギがたどり着き、大きな石で黄泉国に通じる坂を塞いだ場所と伝えられる。この時イザナミは石の向こうから「かくなるうへは、あなたの国の人を1日に千人殺しましょう。」といい、イザナギは「あなたがそうするなら、わたしは1日に千五百の産屋を建てよう。」と言った。

◎国譲りのゆかりの地 大国主命とは

○出雲市内

・スポット6 出雲大社

島根半島の西端の八雲山の麓に鎮座する出雲大社は、大国主命を主祭神としている。『古事記』では、高天原の使者と問いに対して、オオクニヌシが「国譲り」を同意する際に「千木が高天原まで届くような高い御殿を建ててほしい」と言ったのが、出雲大社の創建の神話だと考えられている。

・スポット7 稲佐の浜

タケミカヅチとアメノトリフネが「伊耶佐の小浜」に降り立った、と記されている。この「伊耶佐の小浜」は、『日本書紀』では「五十狭狭の小汀」「五十田狭狭の小汀」とも表記され、現在の「稲佐の浜」だと考えられている。

・スポット8 因佐神社

稲佐の浜の北側にある神社で、『出雲国風土記』に「伊奈佐乃社」、『延喜式』神名帳に「因佐神社」とある神社が、現在の因佐神社だと考えられる。

<スポットの解説> 神話の説明に欠かせない場所を丁寧に伝える

○松江市内

スポット9 美保関

「国譲り」で高天原から「伊耶佐の小浜」に降り立ったタケミカヅチが、オオクニヌシに「この葦原中国は、アマテラスの御子の治める国である。お前の心を聞かせて欲しい」というアマテラスの言葉を伝えると、オオクニヌシは「私はお答えできません。代わりに私の子であるコシロヌシがお答えしましょう。」と答えた。その時、コシロヌシは「御大ノ前(みほのさき)」に出かけて漁の最中だった。その「御大ノ前」が現在の美保関だと考えられている。

スポット10 美保神社

美保湾に面した西側の高台に鎮座する美保神社は、『出雲国風土記』島根郡条にみえる「美保社」と考えられており、事代主神とその母神である三穗津姫命の二神を祀っている。

○境港市内

※時間に余裕があれば、隠岐への船旅をセットし、国生みの話とともに2日間を過ごすことも可能

◎大国主命の再生

○米子市内

スポット11 粟嶋神社

御祭神は大国主の国造りに協力した少彦名命。人魚の肉を間違えて食べてしまった娘が美しいまま800年間生きたという「八百比丘尼」の伝説が残っている。美しさを保つパワースポットとして人気を博している。

※広島に戻らず、東京に向かうプランとして、寝台列車(サンライズ出雲)の旅を加えることも可能

○南部町内

スポット12 赤猪岩神社

神話「因幡の白兔」で八上姫と結ばれた大国主命は、そのことで兄達から恨みを買った。兄達は、赤い猪と偽って、真っ赤に焼けた大きな石を落とし、それを大国主命に受け止めさせ、殺してしまう。それを嘆き悲しんだ大国主命の母親の願いにより、見事復活をはたすが、その舞台となったのが赤猪岩神社である。

<情報発信>

神話の漫画化と多言語化により、わかりやすい発信を行う。

神話を文字だけでなく、絵を巧みに利用して、誰でもわかるような展開を表現し、そこに翻訳を加えることで、わかりやすい情報として世界に発信する。

YouTube 等を活用し、動きのある情報発信を続けていく。